

## 小論文

ページ	解答用紙枚数	時間
1~7	2枚	90分

### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子を開いてはいけない。
2. 印刷不鮮明の箇所などがある場合は、監督者に申し出ること。
3. 解答はすべて別紙の解答用紙の指定欄に横書きで記入すること。
4. 解答用紙の指定欄には必ず氏名および受験番号を記入すること。
5. 解答用紙の評点欄には何も記入しないこと。
6. 解答用紙は持ち帰らないこと。

1 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

(前文省略)

随分枕が長くなったが、ここから吉田松陰が残した言葉を紐解いていきたい。なお、吉田松陰の言葉として記す文面は、その多くが長い文章(手紙)の一部である。紙幅の都合上、前後文とその背景を省略させていただくことをご容赦いただきたい。

至誠にして動かざる者は未だこれ有らざるなり

(至誠を以て対すれば動かすことができないものはない)

吉田松陰が遺した言葉として、最も有名であろうこの言葉。吉田松陰が生きた時代は、辻斬りを企てる狼藉者が跳梁跋扈する混沌の時代であったが、今の時代のビジネスシーンにあてはめてみても、この言葉は非常に真髓を捉えていると言える。技術が日夜進化する時代においても、ビジネスの原点が人対人であることは不変であり、人の営みである以上、そこには必ず人間関係が生じる。そうした中で肝要なのは信頼であり、それを構築するために大切なのは誠心だ。

『京セラ』の創業者であり、どん底まで落ちた『JAL』を再生に導いた稀代の経営者・稲盛和夫氏の言葉にこんなものがある——「人を動かす原動力は、ただ一つ、公平無私であること」。これはつまり、誠実である人間だけが人を動かすことができると言い換えられる。吉田松陰が重んじた“至誠”は、時代を超えた今も重視される精神であることが窺い知れる。

志を立ててもって万事の源となす

(何事も志がなければならぬ。志を立てることが全ての源となる)

『マイクロソフト』を創業し、一代で世界に名を轟かす企業へと成長させたビル・ゲイツ氏は、成功の秘訣について「大きなビジョンが持てるかどうかだけ」だと語る。企業活動の中で何か新しいことを始めようとした時、綿密なスキームを練っていくことももちろん重要であるが、それ以上に大切なことは明確なビジョン＝志を持つことである。企業活動とは縁遠い吉田松陰の言葉と、ビル・ゲイツの言葉がリンクするのはいかにも不思議ではあるが、事を成すのは即ち「志(ビジョン)を立てられるかどうか」にあると言えよう。

学は人たる所以を学ぶなり

(学問とは、人間はいかにあるべきかを学ぶことである)

吉田松陰は、古今東西様々な書物を読み漁る中で実に豊富な知識を身につけ、獄中にあっても学問に勤しむことを怠らなかつた人物である。その吉田松陰が辿り着いた境地が、「学問は知識を身につけるためのものではなく、考え方を磨くもの」だったのであろう。

昨今、勉強はできるが仕事ができない、という若者が多いと聞く。高学歴であっても、常識に欠けたり、人の心の機微を読み取れなかったりするのだという。そうした新入社員に対して、先輩諸氏は「大学で何を学んできたのか——」と、嘆息をもらす。吉田松陰の言葉を当てはめれば、そうした若者は勉強の仕方を間違っていたのかもしれない。<sup>(7)</sup> 難しい方程式が解ける、難解な漢字が書ける……実はそうしたことは何ほどのこともない。方程式を解く、漢字を覚えるといった過程の中から何を見出すかが肝要なのだろう。

『Google』の会長兼最高経営責任者エリック・シュミット氏は、リーダーの資質について、「最も重要な資質は聴いて学ぶ能力です。なぜならば誰も全てを知ることにはできないから」と語る。どれだけ勉強しても、一人の人間が覚えられることには限りがある。しかし、誰かの知恵を借りられるのならば、それは無限の知識になりはしまいか。その“誰か”の力を借りるためには、“人間力”を磨かなければならない—— やや曲解が過ぎたきらいはあるが、「学は人たる所以を学ぶなり」という吉田松陰の言葉からそうした意味を見出すのも面白い。

親思う 心にまさる親心

今日のおとづれ 何と聞くらん

(自分がどんなに親を思っているといっても、親が子どもを思う気持ちははるかに大きいもの。私の死に親はどれほど悲しむだろうか)

吉田松陰辞世の句であり、家族に宛てた手紙に記されていた一文。吉田松陰が有徳であるのは、常に家族をはじめとした周囲との関係を大切にしてきたことに尽きる。己の信念を貫くと同時に周囲への心遣いも忘れない、そんな人物だったのであろう。吉田松陰もやはり人の子、最期に思いを馳せるのは家族への思慕であった。

「人を選ぶ時、家族を大切にしている人は間違いない。仁者に敵なし。私は人を使う時には、知恵の多い人より人情に厚い人を選んで採用している」とは、日本資本主義の父と称えられた渋沢栄一氏の言葉。最も身近な関係にある家族を大切にできない人は、誰に対しても思いやりが持てないものだ。“家族を大切にする”ことは即ち、人に、そして社会に対しても優しくあれるということでもある。吉田松陰が没して150年あまり、他者に対する愛情や思いやりが成功を<sup>22)</sup> 掴む鍵であるということは、時代を超えても変わらぬ真理なのだろう。

狂愚まことに愛すべし、才良まことに<sup>23)</sup> 虞るべし

(進取の気性に富み、積極的に行動することこそ大事で、才気走った頭でだけ考えたようなことは取るに足らない)

「狂愚」とは、今の時代における“狂気”や“愚者”の類の意味ではない。言葉の本意は「進取の気性に富み、行動を恐れない」ことである。吉田松陰はこの「狂」という字を好み、自身を「狂愚」と称し、塾生たちには日夜こんな言葉を投げかけていた。

——「諸君、狂いたまえ」——

弟子や部下の心に火を点けるのに、長々とした講釈はいらない。俳味を含んだ言葉と、謹厳実直な行動があれば充分である。

日本にウイスキーという文化を根付かせた『サントリー』創業者の鳥井信治郎氏は、商品の新しい価値を生むため、常識にとらわれない考え方や挑戦への気概を何よりも大事にした。そうした自身のチャレンジスピリットや向上心を部下に伝えるために、鳥井信治郎氏がいつも部下に掛けていた言葉はこうだ——「やってみなはれ」。関西人らしい独特の言い回しで、皆のやる気に火を点けたのである。「挑戦しなさい!」と言われるよりも、どこかマイルドで何だかやる気にさせられる言葉だ。シンプルで独創的な語彙力というのは、人を束ねる上で、あるいは最も重要な要素なのかもしれない。

(後文省略)

(出典：吉田松陰に学ぶ現代社会の渡世術 一立志の心得こそが道を拓く鍵となる一、トップフォーラム, 11月号, Vol. 33, No. 410, 2015 より抜粋, 一部改変)

- 問1 上の文章は、大きく分けて5つの考えについて述べられている。それぞれ、  
どういうものか、本文中に述べられている考えを340字以内でまとめなさい。
- 問2 下線(ア)について、あなたが大学で具体的に何を学びたいか、そしてそのためにはどうしたらよいか、本文を参考にして200字以内でまとめなさい。

Ⅱ 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

この部分に記載されている文章については、著作権法等の理由から、公表しておりませんのでご了承ください。

この部分に記載されている文章については、著作権法等の理由から、公表しておりませんのでご了承ください。

この部分に記載されている文章については、著作権法等の理由から、公表しておりませんのでご了承ください。

(出典：森博嗣『人間はいろいろな問題についてどう考えていけば良いのか』 新潮新書 2013年  
より抜粋)

- 問1 抽象的にものを見ることのメリットについて、著者の考え方を200字以内でまとめなさい。
- 問2 問1を参考にして、学校の勉強において、抽象的にものを見ることで問題を解決したあなたの経験を取り上げ、そこから何を学んだかについて300字以内で述べなさい。



平成29年度入学試験 小論文「出題意図」

(入試情報公開用)

共生システム理工学類 推薦入試

現代社会における課題をテーマとした論説文を題材とする。問題Ⅰでは、主として論説文を参考に自分の考えをまとめ、具体的・論理的に表現する能力について評価する。問題Ⅱでは、主として長文を読解し、自分の経験に基づいた考えを筋道立てて表現する能力について評価する。

Ⅰ

問1

著者の主張を読み取る理解力と、要点を簡潔に表現する能力を評価する。

問2

大学で何を学ぶのか、入学に対する態度を見るとともに、問題文における著者の主張を的確に読み取る理解力と、自分の言葉で相手に分かる正しい日本語の言葉遣いで文章を作成する表現力を評価する。

Ⅱ

問1

長文から、著者の主張を読み取る理解力と、要点をまとめ簡潔に表現する能力を評価する。

問2

問題文を的確に読み取る能力と、経験に基づいた自分の言葉で相手に分かる正しい日本語の言葉遣いで筋道立てて文章を作成する表現力を評価する。